

Since 1968

令和3年度 エコアクション21
環境経営レポート

対象期間:2021年1月~2021年12月

作成年月日:2022年3月21日



株式会社 M. T. C

〒635-0076 奈良県大和高田市大字大谷 126 番地 2

TEL: 0745-22-1410

FAX: 0745-22-2495

URL: <http://www.mtc-nara.co.jp/>

☆目次☆

- I 事業の概要
- II 工場配置図
- III 実施体制図及び認証・登録範囲
- IV 環境方針
- V 過去の実績と環境目標
- VI 令和3年度活動計画
- VII 令和3年度活動実績（2021年1月～12月）とその評価
- VIII 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
- IX 代表者による全体評価と見直しの結果

【 I 組織の概要】

(1) 事業者名および代表者名

事業者名： 株式会社 M.T.C

代表者名： 代表取締役 森 久次

(2) 所在地

(プレス工場) 〒635-0076 奈良県大和高田市大字大谷126番地2

敷地面積： 859㎡

(本店(倉庫)) 〒635-0076 奈良県大和高田市大字大谷122番地

敷地面積： 172㎡

(大谷工場) 〒635-0076 奈良県大和高田市大字大谷8番地1

敷地面積： (工場) 396㎡ (駐車場) 423㎡

(3) 事業の内容 金属製品製造業

(4) 環境管理責任者氏名及び担当者の連絡先

環境管理責任者： 前田 智 (製造部 部長)

担当者： 中西 真紀 (EA21 環境管理委員会事務局)

[TEL: 0745-22-1410](tel:0745-22-1410) FAX: 0745-43-7374

(5) 工場の規模

2021年度(2020年9月～2021年8月) 加工費額： 342 百万円

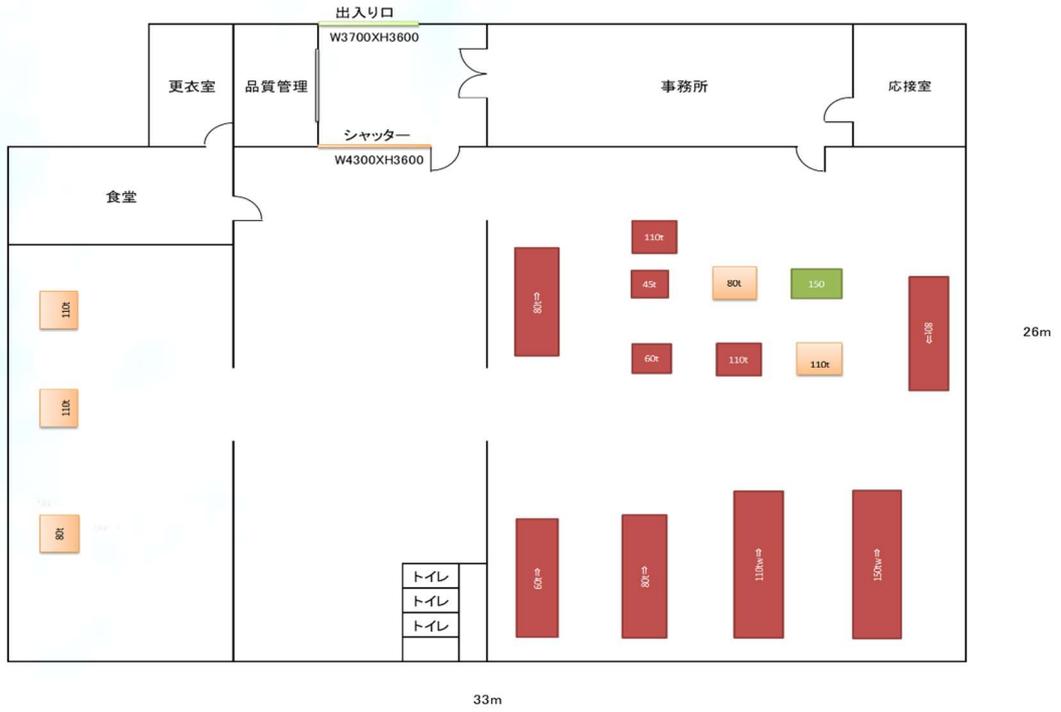
従業員数： 43名 (2022年3月末)

(6) 対象範囲

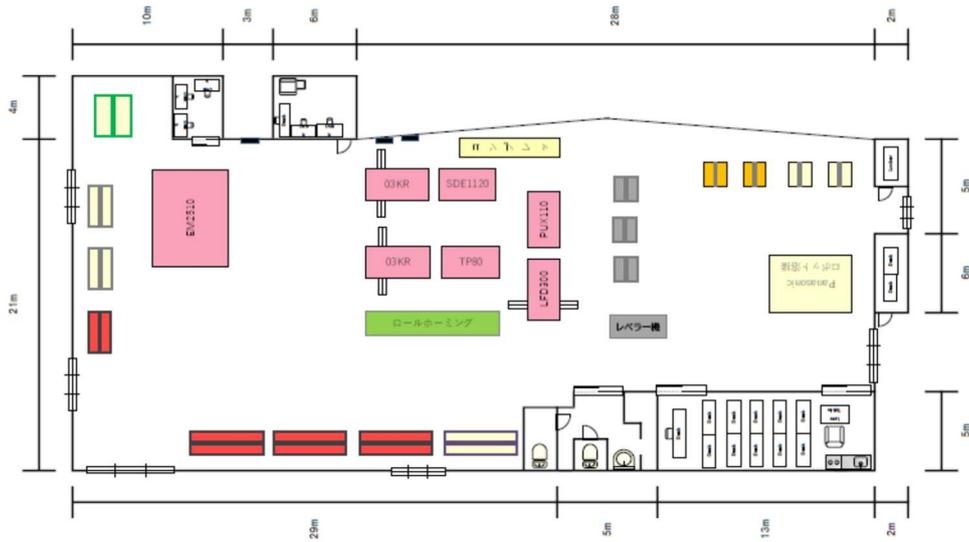
対象範囲： 全事業活動 対象事業所： プレス工場、本店(倉庫)、大谷工場

【Ⅱ 工場配置図】

<本社>



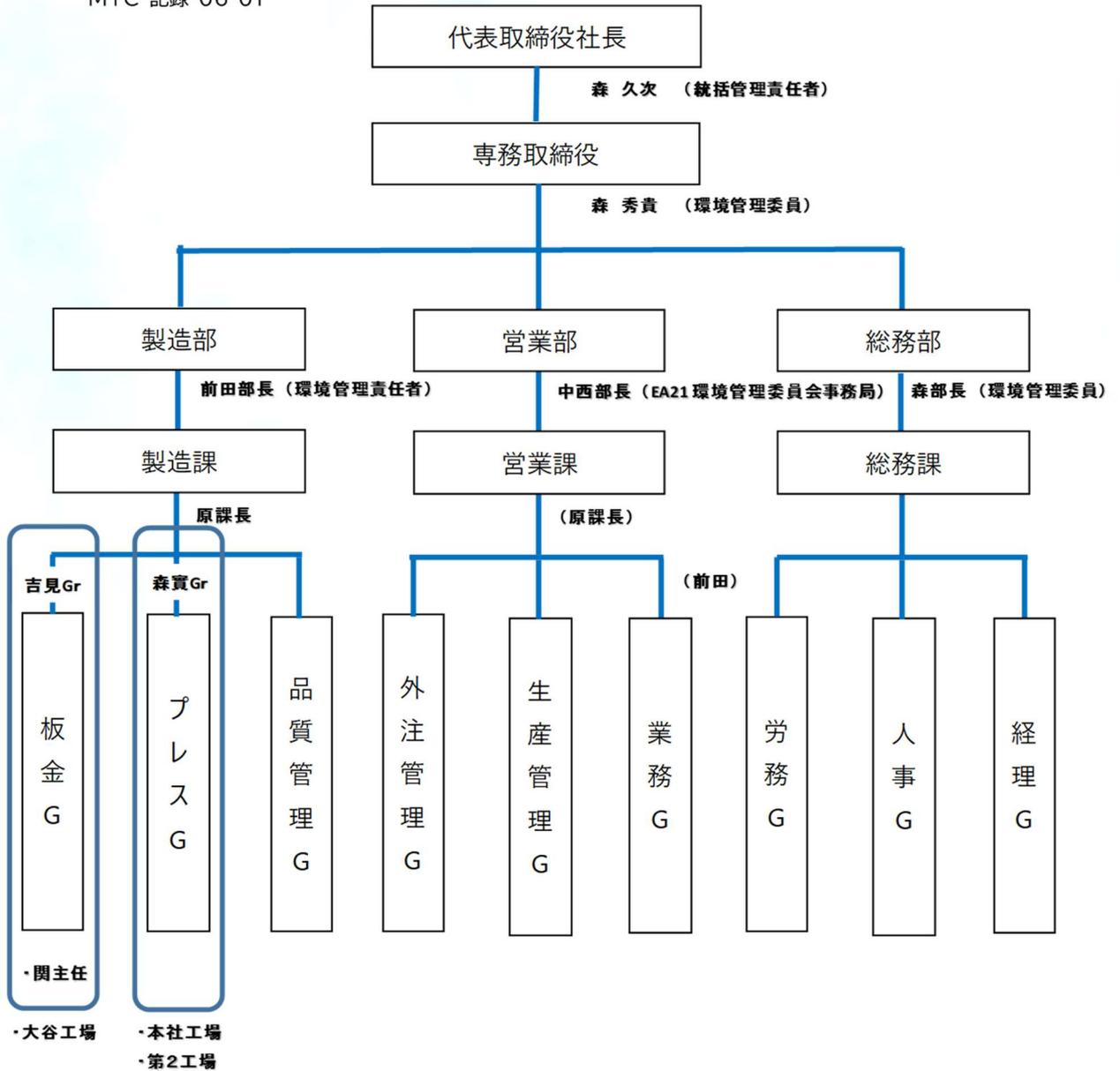
<大谷工場>



【Ⅲ 実施体制図】

(株)M.T.C 実施体制図(2020年8月現在)

MTC-記録-06-01



【IV 環境方針】

基本理念

私達は、ものづくりを通じて環境にやさしい製造業としての

ECO活動に取り組む事を目的とします。

◆環境方針

弊社の基本理念に基づき 金属製品製造業の事業活動を通じ 環境活動を実施し、地球環境における自然破壊の保護に努め 社会及び地域に貢献することを目指します。

I. 環境目標を定め 社員一丸となった環境活動への参加と継続的改善の推進を行ない必要に応じて 計画の見直しを行います。

II. 環境に関する法規制、条例を遵守し、環境負荷の削減に取り組みます。

III. 具体的取り組み内容

- ① 産業廃棄物の削減とリサイクル化の推進
(スクラップ排出量の把握)
- ② 二酸化炭素の排出量の削減
(電力と燃料使用量の把握と削減)
- ③ 購入物品の環境配慮と適正使用
(コピー紙、手袋等)
- ④ 工程短縮に関する提案制度の強化
(単発プレスから順送プレスへの工法変更等)
- ⑤ 工場周辺の環境整備と周辺住民とのコミュニケーション

2021年 9月 1日 制定

株式会社 M.T.C

代表取締役 森 久次

【V 環境経営目標】

	令和3年度 (基準値)	令和4年度 (目標値)	令和5年度 (目標値)	令和6年度 (目標値)
売上高 (百万円)	389 (100)	420 (105)	440 (111)	460 (117)
電力 (kWh)	249,959 (100)	244,959 (97)	242,460 (96)	220,000 (94)
ガソリン (L)	4,207 (100)	4,200 (97)	4,100 (95)	4,000 (93)
軽油 (L)	6,794 (100)	6,477 (97)	6,347 (95)	6,300 (93)
灯油 (L)	3,043 (100)	2,800 (97)	2,700 (95)	2,600 (93)
CO2 排出量 (kg-CO2)	116,410 (100)	108,250 (98)	106,250 (96)	104,250 (94)

平成29年度の実績値を基準値とする。

()内数字は、電力量は、売上高比、基準年比、その他項目は基準年比

【VI 令和3年度環境経営計画】

環境目標 実施事項

No.	目的	目標	実施事項(内容)
1	エネルギー使用量の削減	(1)自動車の燃料使用量削減(燃費前年比1%削減)	燃費(軽油使用量/走行距離)の把握(基準値の把握) アイドリングストップ、急発進の禁止、タイヤ空気圧の適正化による燃費削減
		(2)電力使用量の削減(前年同月比、売り上げ比2%削減)	休憩時間、機械の照明をこまめに消し、照明箇所も決める。
2	工程短縮の提案制度の強化	(1)年間提案件数 月間1件以上	各部署、月末の環境推進委員会会議で発表する。

運用管理

No.	環境目的	実施事項(内容)
1	電力使用量の削減	毎月の電気使用明細より電力使用量を削減する。
2	自動車(ガソリン及び軽油)燃量使用量の削減	毎月のガソリン/軽油使用明細より使用量を削減する。
3	灯油使用量の削減	毎月の灯油使用明細より灯油使用量を削減する。
4	水使用量の削減	毎月の上水道使用明細より水道使用量を削減する。
5	機械油の購入量の把握	機械油の購入伝票により購入量を把握する。
6	廃油量の管理	廃油タンクにある廃油量を把握する。
7	金属くず引き取り量の把握	毎日のスクラップ(金属くず)の引取り伝票より毎月集計し引き取り量を把握する。
8	月間売上高(材料費除く)の把握	毎月末締日に、集計している表より月間売上高を把握する。

【Ⅶ 環境経営実績】

	令和2年度 (基準値)	令和3年度 (目標値)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (目標値)	令和5年度 (目標値)	
売上高 (百万円)	293 (100)	360 (122)	389 (132)	420 (143)	440 (150)	
電力 (kWh)	197,200 (100)	200,000 (101)	249,959 (126)	244,959 (124)	242,460 (123)	
ガソリン (L)	4,731 (100)	4,500 (95)	4,207 (91)	4,200 (88)	4,100 (86)	
軽油 (L)	6,412 (100)	6,200 (97)	6,794 (104)	6,477 (101)	6,347 (99)	
灯油 (L)	2,715 (100)	2,688 (99)	3,043 (112)	2,800 (95)	2,700 (93)	
※CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	100,258 (100)	98,250 (98)	116,410 (116)	96,250 (96)	96,250 (94)	
水使用量 (m ³)	95 (100)	90 (95)	95 (100)	90 (95)	88 (92)	
スクラップ ぐず (t)	458,070 (100)	465,000 (102)	439,670 (96)	470,000 (103)	475,000 (104)	
加工油購入量 (L)	2,158 (100)	2,000 (93)	2,242 (104)	1,900 (93)	1,850 (96)	
廃油(保管量) (L)	70 (100)	70 (100)	68 (97)	70 (100)	70 (100)	

実績の () 内の数字は達成率(年度目標に対する比率%)

達成度 黒文字：達成

赤文字：未達成

※CO₂排出係数の推移

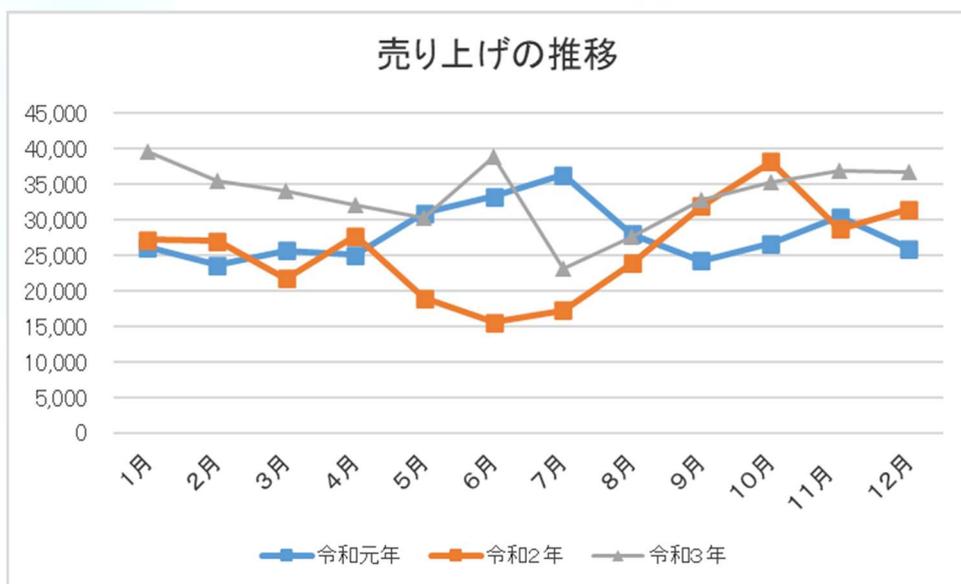
関西電力 2020年 「基礎係数 0.351」 を使用。

電力は工場で使用する「高圧電力」を設定。

運用管理（監視・測定）

【Ⅷ 令和元年度環境経営実績（2021年1月～12月）とその評価】

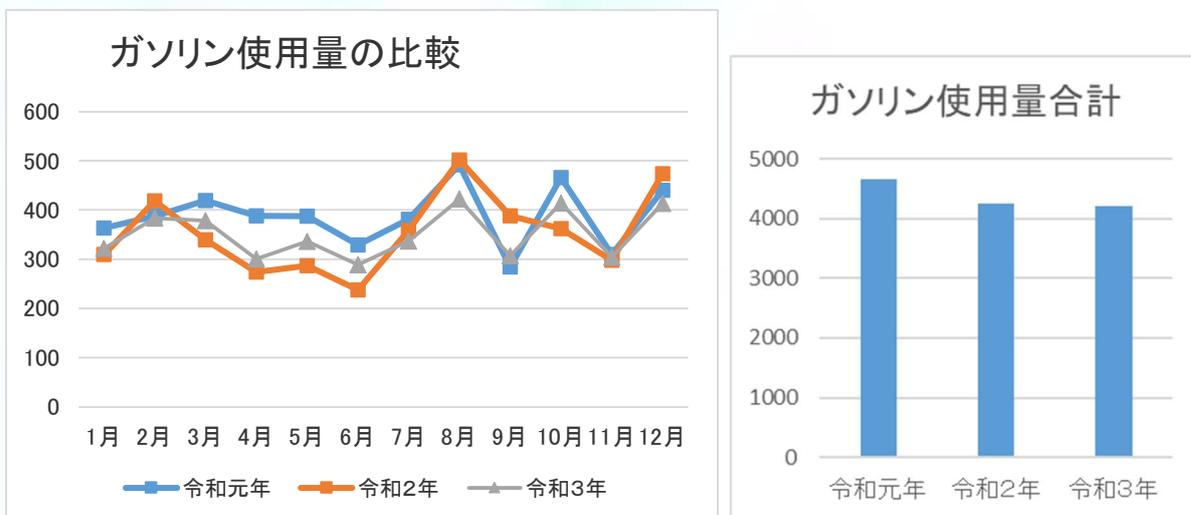
（1）売上高（単位：千円）



（評価）

2021年度1月～12月の売上高は、前年度に比べて達成率は132%であった。そうなった背景には、新型コロナウイルス感染症に伴う影響が大きく、2020年までは売上も大きく低迷したが、非常事態宣言解除後、売り上げは一気に回復し、新規案件や機械稼働率も増加し、すべての売り上げに対してプラスに転向したことが大きな理由である。前年度と比較だけではなく、設立後の最高売り上げを達成した。

(2) 自動車の使用量削減 (前年比/1%減少) ガソリン (L) /月

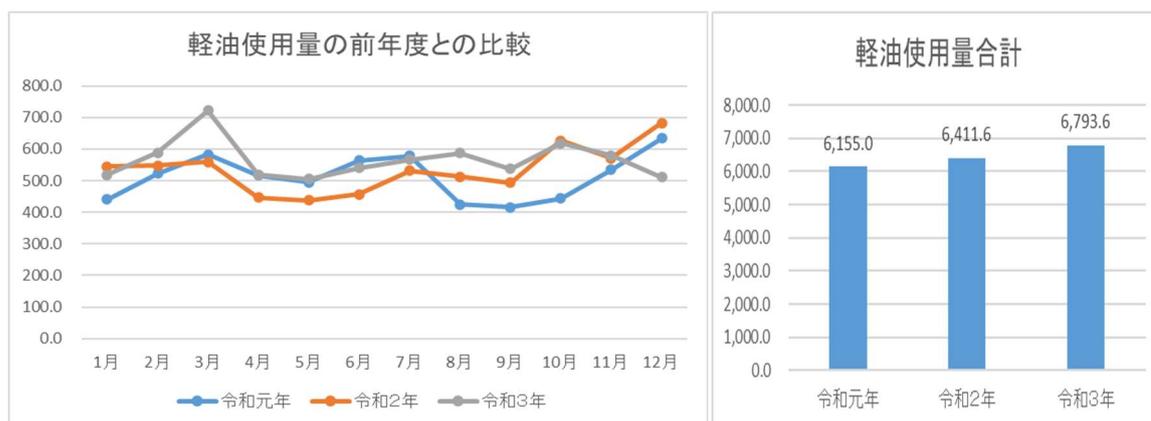


(評価)

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響でガソリン使用量は低減した。

背景には、「緊急事態宣言」発令による外出自粛要請が関わっており、他社との会議や打ち合わせのスタイルが未だに「PCでのリモート」によるものが大半を占める為、自動車使用料は減少傾向にあると推測する。このまま、リモートで行なえる会議についてはそのまま継続して行うことで、外出機会を抑制し、自動車の使用量を抑えていく様、今後も省エネに努めていきたい。

(3) 軽油使用量の削減 (前年比/使用量6%増加)

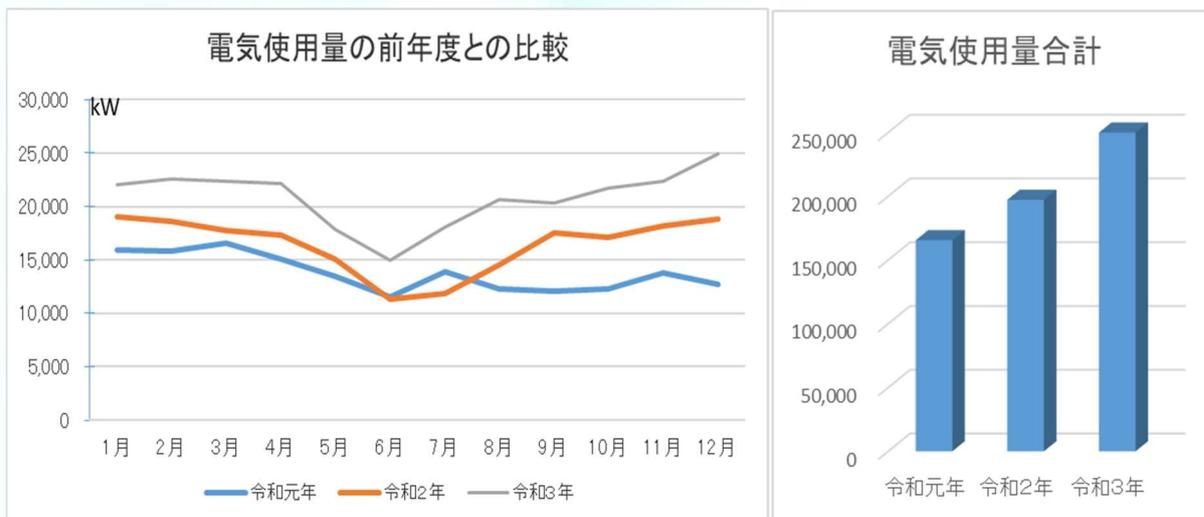


(評価)

軽油に関しては、今年度も増加した。

こうした背景には、毎日同ルートの運送を2台のトラックが行っているが、新しい新規取引先が増加し、便の数量が増えたことによるものと推測する。そういった中でも、アイドリングストップや無駄な運行ルートを省くように心がけ、少しでも燃料使用量を抑制したいと考えている。

(4) 電力使用量の削減 (前年比/使用量 26%増加)



(評価)

大谷工場を稼働し、本社工場の電気量と合算。その為に全体の電気使用量は大きく増加した。それ同時に溶接機等の設備増加に伴う電気使用量の増加も背景にあり、節電に向けて、今年度の数値を基準とし、電機使用料の管理を行なう。

また、その一環として、機械の無駄な電力使用を抑制する取り組み(不使用な機械は主電源を切る等)を更に強化したい。

(5) 工程短縮の提案制度の強化 (年間提案件数 月間 1件以上)

	1月~3月	4~6月	7~9月	10~12月	合計	目標
令和元年	1	1	2	2	6	1件/月
令和2年	1	1	2	2	6	1件/月
令和3年	1	2	1	1	5	1件/月

(評価)

工程短縮の提案制度の強化(年間提案件数 月間 1件以上)としては、前年度の6件から5件と提出件数は減少した。しかし、その中から採用される提案は今期において実に多く、取引先や新規顧客と打ち合わせさせて頂ける事が多く、実用・採用されることが2件あった。しかも今回の提案は製造部からの提案が多くあったことから「提案営業」が強みの弊社に於いては良い傾向にあると判断する。

【総合評価】

今期の評価判定には、「新型コロナウイルス感染症」が昨年に続き、関わるが多くあった。軽油使用量に関しては昨年度と不変だったが、自動車での外出が減少傾向であった為、ガソリンの使用量は約9%削減した。非常事態宣言等で、不要不急の外出が出来なくなったことが大きな理由としてある。今後もこのコロナ禍の中、リモートによる会議を優先的に行うことで自動車の使用率を低減させていきたい。

また、機械の増台による電気代の増加も1つの変化である。ここ最近では、電気代が過去数年に比べると大きな上げ幅が続いており、2022年11月にも新たな機械が増える為、更なる電気代の増加につながると考えている。

また、昨年に続き、社内ではエコに関する認識が維持できており、電気の消し忘れや、使用していない機械のモーター停止に関して、気付いた従業員が切ったり、環境委員が担当者に注意を促したりするなどといった行動がよく見られるようになった。ただし、従業員が機械の増加と同等に増えてきている為、教育の場を設け、エコ認識の維持を心掛け、このまま継続して社内での認識を高めていきたい。

【IX 環境関連法規への違反・訴訟の有無】

今年度は、環境関連法規に対する違反や訴訟等はありませんでした。

環境関連法規制順守評価表

	法令等の名称	環境側面	条項	規制内容	順守評価
資源 関連	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃油 金属くず	法第 2 条 (定義)	有用物	—
		事業系一般 廃棄物	法 6 条の 2 第 4 号	市町村の収集運搬、処理 に協力	○
	資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）	廃油 金属くず	法第 4 条 の 2(事業 者 の 責 務)	製品の長期間使用、再生 資源の利用及び廃棄物 のリサイクルの促進	○
				自社手順書の順守 (委託契約書、数量管理)	○
	特定家庭用機器再商品 化法（家電リサイクル 法）	冷蔵庫、ユニ ット型エア コン、エア コン、 洗濯機等	法第 6 条	① 長期間使用し、廃棄 物を抑制する ② 排出するときは、運 搬する者等に適切に引 渡し、料金の支払いに応 じる	○ 該当 なし
使用済自動車の再資源 化等に関する法律（自 動車リサイクル法）	トラック	法第 8 条 法第 73 条	① 使用済みの自動車 を引き取り業者に引き 渡す ② リサイクル費用を 資金管理人に預託す る	該当 なし ○	
使用済小型電子機器等 の再資源化の促進に関 する法律（小型家電リ サイクル法）	電話、FAX、 携帯電話、 デジタルカ メラ、PC、 プリンター 等	法第 7 条	使用済小型電子機器等 の収集・運搬又は再資源 化を適正に実施し得る 者に引き渡すよう努め なければならない。	該当 なし	
化 学	消防法（危険物）	機械油（危険 物、第 4 類、	法第 6 条 令第 1 条	少量危険物取扱所（指定 数量 1/5 以上指定数量	○

物質		第2石油類 (2種類)第 4石油類(4 種類))	11, 12 技術上の 基準細則 第30条	未満)かを判断し、それ ぞれ要求される技術上 の基準および届け出と うにかかる法規制を順 守する。	○
公害 防 止	自動車NOx・PM法	トラック(デ ィーゼル車)	法第4条	ディーゼル車規制基準 合格車を使用	○ 型式 PDG
	騒音規制法	コンプレッ サー 3台 金属加工機 械 (30トン) 順送プレス 9台 単発プレス 10台	第6条 第8条 第5条	特定施設の設置・変更届 平成28年12月1日変更 届 特定施設の数等の変更 規制基準の順守 平成28年9月27日大和 高田市測定 58dB)	○ — ○
	振動規制法	コンプレッ サー3台 機械プレス 全て	法第6条 法第8条 法第5条	同上	○
条 例	大和高田市廃棄物の減 量化、資源化及び適正 処理に関する条例	事業系一般 廃棄物	第4条	少量のため一般廃棄物 として取り扱っている	適用 外
	奈良県生活環境保全条 例	コンプレッ サー、ファン (7.5KW以 上) 金属加工機 械 廃棄物	第42条 第43条 第56条	騒音等規制基準の遵守 義務 騒音等発生施設の設置 の届出 適正処理	○ ○ ○

順守評価日時：令和3年1月26日

【X 環境活動報告】

1. 会社周辺の清掃作業

年に数回、会社周辺の清掃作業・側溝清掃を行いました。



2. 環境委員会の発足に伴い、環境会議の実施

環境について（社内についてのエコ作業等）の会議を3か月に1回実施しております。

【XI 代表者による全体評価と見直しの結果】

コロナウィルスの蔓延化及び半導体製品の不足、原材料の高騰等による状況下の中、環境経営実績に於いては殆んどどの分野に於いて増加傾向にあるが理由として今期の売上高は、前期と比べ増加傾向に有りそれに伴う製造加工数からの経営実績目標値が予想を遥かに上回る事となった。実績値に於いては、予想値を上回ったが、前述の理由から考えると妥当な数値だと判断している。

コロナウィルス蔓延化の影響により大々的なエコ活動への取り組みが何かと達成されなかった様に感じられるが小さな取り組みは積み重ねる事が出来たかの様に思われる。

昨年度から、今年度にかけて従業員数も大幅に増加している為、次年度に於いては、一人ひとりがエコへの取り組みに於いて意識しながら認識を高めていく事を会社全体で取り組む事を心掛けて行きたいと考えている。

2022年6月20日
株式会社 M.T.C
代表取締役 森 久次